

## 1. 教育方針

### 1) 学部教育

小児看護学ⅠⅡ、小児看護学演習ⅠⅡ、小児看護学実習、卒業研究を担当した。小児看護学Ⅰは健康な小児の成長発達を理解し、学校保健について理解を深めることを目的に2年次および編入生4年次に行っている。小児看護学演習Ⅰ、小児看護学Ⅱは、小児期特有の疾患の理解、病児の理解と看護支援について理解を深める学習を2年次から3年次に行っている。また、小児看護学演習Ⅱはそれまでの学習を応用し、病児の成長発達や生活援助、さらに看護技術の課題を新たに加えてグループ学習の成果を発表する形態で3年次に行っている。特に技術は視聴覚システムを使用し、学生のデモンストレーションや学習成果を効果的に発表した。

小児看護学実習は、3年次に、健康な小児の理解のために保育園実習を行った後、3カ所の小児病棟で実習を行っている。学生同士が実習体験を共有し、病児とその家族への看護についてディスカッションを行い、小児看護への理解を深められるよう指導を行っている。4年次に行う卒業研究では、5名の学生が各々の研究テーマにそって研究過程を学び、論文にまとめて、口頭発表をするまでを指導した。

### 2) 大学院教育

小児家族発達看護学特論A1, A2, B、演習A1, A2, B、共通科目である家族看護学特論を担当している。

また、乳幼児精神保健・看護に専門性を発揮できる小児専門看護師を養成する大学院カリキュラムに変更したため、小児専門看護師をめざす2名の院生がCNS実習を行った。さらに、乳幼児精神保健・看護のための新たな実習場として、本学医学部附属病院小児科外来と大川こども&内科クリニックに育児支援外来「すくすく」を設置、週1回の外来実習を行なった。